

手羽先で生きもの実感

愛媛・四国中央市立三島小学校 田中正史さん(56)

花まる先生 公開授業



手羽先を解剖し、仕組みを説明する田中正史先生＝愛媛県四国中央市、伊藤菜々子撮影

今年1月、4年1組の3時間目の理科。人体のしくみを学ぶために使われるのは、ニワトリの手羽先だ。
「今日の狙いは、これです」白衣を着た田中先生が電子黒板に映した文字を、20人の子どもたちが声をそろえて読み上げた。「手羽先の骨、関節、筋肉を観

察しておいしくいただく」見て触って確かめて、それで終わりじゃない。最後はスープをつくってみんなで食べる。生きものの命を使った授業だから、決して無駄には終わらせられない。全員がゴム手袋をつけて、手羽先を一つずつ受け取る。紙皿に乗せ、じっくり観察する。「『爪』を手がかりに指を見つけてみよう」と田中先生。手羽先は人間でいえばひじから先の部分。隠れて見えないが、ちゃんと指の骨が3本ある。爪というのは骨の先端だ。「あ、こやー」「ほら、ちょっと飛び出してる」「指、指！」

3本の指を確認したら、次は腕と筋肉の付き方を見る。まずは先生が医療用のハサミを使い、切りひらいてみせる。「へこんでいるところからハサミを入れて、皮だけぐいぐい切っていくよ。腱を切ったらダメですよ。関節のところがよく見えるように、気をつけて」中から白い腱が見えると、「おー」とどよめきが上がった。「見えるかな。これが筋肉で、つながっているのが腱。筋肉を引っ張ったら、動くのは外側？内側？ やってみよう」ひじにあたる部分の筋肉を上下させると、腱でつながっている手首にあたる部分の内側に向かってパタパタと動いた。

はってん はっけん
疑問や驚き
誰かと話して
視野広げよう

筋肉、関節、腱、骨。知らなくても生きていきます。でも、自分自身の「身体」の実感、「命をいただく」の実感は大切。そして毎回の授業で「学び合う」経験を積み重ねていきます。その授業の感想を

授業の動画へジャンプ
①スマホやタブレットで「朝日コネクト」と検索し、無料アプリをインストール
②起動して日付を発行日に合わせ、上の写真の中心部にかざすと授業の動画が見られます
③動画表示中に画面をダブルタップすると全画面表示となり、見やすくなります

デジタル版「花まる先生」(http://www.asahi.com/edu/hanamaru/)に動画。会員限定で授業案も。